

下野市立石橋中学校

1 学校課題

「主体的に問い続ける学習者の育成」

～論理的思考を基盤とした課題発見・課題解決の学習の推進～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校の目指す学校像は「生徒も先生も自ら輝く学校」である。そして、ビジョンは「未来を、たくましく生き抜ける生徒」の育成であり、「自立」「貢献」「創造」を掲げている。急速に変化していく社会を生き抜いていくために、「主体的に問い続ける学習者」になることが必要であると考え。そのために「自ら課題を見付け、個人では解決できない問題にも級友と協力して取り組み、自律的に解決していける生徒」の育成を目指すことで、研究主題に迫っていききたい。

(2) 研究の仮説

「レベルの高い課題（一人では容易に解決できない課題、知的好奇心をゆさぶる課題）」を提示し、仲間と協働して解決する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現すること、また、自分にとって必要な家庭学習の内容と方法（「学び方」）を学ぶ取組を通して、「主体的に問い続ける学習者」を育成できると考える。

3 研究内容

(1) 授業力向上に関すること

①一人一公開授業

今年度も昨年度に引き続き異教科異年齢3人の班を構成し、一人一公開授業及び15分間程度の授業研究会を実施した。公開授業の実施にあたっては、学校課題の「論理的思考を基盤とした課題発見・課題解決の学習の推進」を意識した課題を選び、授業を行った。異教科の教員の授業を参観しお互いに刺激をもらい、学び合うことができた。

②教科部会（時間割に位置付け）

教科内で授業内容や指導方法について専門的に話し合うため、教科部会を時間割に位置付けた。教科内での公開授業を行い、教員の授業への意欲も高まり、授業力の向上が図られた。

③総合的な学習の時間でのゼミ活動

SDGsをテーマにゼミ活動を行った。「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ」の流れで、グループで協力し探究活動を行った。「体験・実験」「アンケート調査」などの活動を意図的に行うようにさせ、「当事者意識」をもち学習に取り組みさせた。また、タブレットを用いて、「相手に伝わる発表」を行った。



④校内研修やS&Uコラボ研修会

「学び合い」の授業を行う上で、教師としての必要なスキルをアップするための校内研修やS&Uコラボ事業による研修会・授業研究会を実施した。「レベルが高く、知的好奇心をゆさぶる課題」を提示し、仲間と協働して解決する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業を行った。また、専門的な視点からの指導助言を得ることができた。

月日	学年	単元名、教材名	課題追究のための手立て等
6/14	2年	道徳「美しい鳥取砂丘」	自分の考えをもった上で、他者の意見を聞き、改めて自分の考えを深めさせる。
9/21	3年	音楽「ブルタバ(我が祖国より)」	曲を聴く「視点」を明確にさせ、根拠や理由をもち、自分の意見を交流させる。

12/7	3年	数学「関数 $y = ax^2$ 」	身近な事象の中に関数関係を見だし、事象を関数の知識及び技能を用いて考察する。
------	----	--------------------	--

⑤授業アンケート

年2回授業アンケートを実施した。授業を生徒が評価し、その結果を数値化し、自分の授業の強み弱みを知り授業改善に生かすことで、教師は生徒の学びを常に意識した授業作り、そのための学習課題の重要性を再認識できた。

⑥ローテーション道徳

ローテーション道徳を年2回（6月・12月）実施した。同じ教材の授業を複数の学級で行うことで授業改善を図ることができた。また、同僚の授業を参観することを通し、道徳の授業力向上の研修になった。

⑦石中教育フォーラム

年度末の校内研修として、全教員が個人レポートを作成し、それをもとにこの1年間の日々の授業や公開授業、研修などで学んだことを共有化し、1年間の成果と課題を話し合う石中教育フォーラムを実施した。

(2) 生徒の学力向上に関すること

①石中タイムを活用しての自主学习

自主学習の取り組み方と自分に合った学習方法の確立を目標に、毎朝15分間の自主学習を実施した。

②学習プリントコーナー

主体的に学習に取り組む生徒を育成することを目的に、各学年の廊下に学習プリントコーナーを設置し、生徒が自主的に学習を進めることができるように工夫した。

③生徒から生徒への啓発（学習委員会）

学習委員会の生徒による学力向上を呼びかける活動を実施した。パワーアップノート（自主学習ノート）の提出を促進させ、家庭学習の習慣化を推進した。また、よいノートを放送で紹介し参考にさせる活動や学習委員による家庭学習啓発のプレゼンテーションを行った。

④「ぐるぐるノート」の実施

クラスで共有の家庭学習ノート＝「ぐるぐるノート」を実施した。級友の家庭学習の取組を学び、毎日のパワーアップノートの質の向上を図った。この取組により、仲間の学び方を学ぶことができるとともに、生徒同士の絆が深まる効果が見られた。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

学校全体として、生徒が容易に解決できない課題、知的好奇心をゆさぶる課題を設定し、ペア学習やグループ学習による対話を通じた深い学びを実践するための取組を行ってきた。こうした「レベルの高い課題」の授業について、全教員が公開し、授業研究会を各グループで行うなど、授業力向上のための実践を行うことができた。また、「学び合い」の授業の基盤となる「学級づくり」については、生徒アンケートの結果で、「友達の良さを認め、協力して学習に取り組んでいる」が、昨年度より0.2ポイント向上し、平均4.7ポイント（5段階評価）となった。

(2) 課題

「主体的に問い続ける学習者の育成」を学校課題として、様々な実践を行ってきたが、アンケート結果で、「自分で計画を立てて学習に取り組んでいる」が5段階評価で平均3.6（昨年度3.5）であった。授業だけでなく、パワーアップノートでも「めあて」を決め、「振り返り」を行う自主学習を実践している。自分の夢や目標を実現するために、主体的に課題を見つけ、計画を立て、実行する力を伸ばすための取組をさらに研究し実施していくことが課題である。授業と家庭学習を両輪として、主体的に学習に取り組む生徒を育成するための研究を深めていかなければならないと考えている。